

# 竹取新聞

株式会社 カグヤ  
東京都新宿区西新宿3-2-11  
新宿三井ビルディング  
2号館10階



第135版

理念と実践で  
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

カグヤクルーブログも  
毎日元気に配信中！

カグヤウェブサイト



www.caguya.co.jp

「聴福庵」の情報はFacebookで  
f 神家総本家 聴福庵

## 変わっていくという事



子どもも地球も私たちも。「いのち」が喜ぶ働き方を追求します。

時が流れる限り時代は変わり続けます。だからこそ、子どもたちに必要な教育の根本は変わらずとも、変わりゆく時代に併せて環境や方法を変えて行くのだと思います。

今年、全人類はコロナによって大きな打撃を受けました。しかし、中国やインド、アメリカの大気汚染を筆頭に、一時的とはいえ、地球全体の自然は大きな回復の機会を得ました。また、「教育」や「働く」と言うことも、「学校や会社に行くこと」の意味や重要さの再確認とともに、「行かなくてもできること」の意味や重要さを知るという両面

を私たちは初めて学べる機会を持ちました。一見悪く見える事態も、物事の見方を変えれば福に転じることが出来ます。子どもたちに対する「教育」と同じように、子どもたちに残していきたい「未来」「社会」も時代と共に変わっていくべきだと思います。そのためには私たちの「働き方」や「暮らし方」を変えなければなりません。この機会を活かさず、このまま「働き方」や「暮らし方」を変える挑戦をしないというのは、「子ども第一義」というカグヤの理念からは考えられませんでした。

オフィスを移転するのではなく、時代に合った働き方を追求し、子どもたちが憧れるような未来と社会を作るには、まずは私たち自身の「身近な社会や暮らし」を変えて行くことを決めました。「オフィス」に出勤することが仕事ではなく、何が「働く」という事なのか。どう働くことが世の中にも子どもたちにも、自分たちにとってもよいのかを追求していきたいと思っています。

## オフィスへの感謝

私のカグヤでの社会人生活は、入社と研修を兼ねて、福岡県にある英彦山の登山からスタートしました。「東京に会社があるにもかかわらず、なぜ福岡で入社？」と抱いた疑問も今思えば、この時から働く場所を問わず、必要な場へ赴き、目的に沿った働き方をする「暮らしフルネス」に繋がる片鱗があったことを感じます。



荷物を運び出した後の新宿オフィス。

毎日電車に揺られ、通勤し早10年。通勤することが当たり前でしたが、新型コロナウイルスにより、職場に行くことが働くことではなく、そもそも働くとは何なのか？を考えさせられました。そして、新宿オフィスの移転の決定には驚きがありました。これまでに社内ですべての機材や棚などは、これから起業していく方など様々な方にお譲りし、空っぽになったオフィスは寂

しげではありますが、10年という時間の中で様々な経験をさせて頂き、たくさんの思い出が心に刻まれています。

カグヤには「子ども第一義」の理念があり、子どもたちが憧れるような働き方をするのとを一つの目標にする中で、今回の引っ越しは単に働く場所の変化ではなく、これまで変えられなかった働き方を変えるチャンスでもあるのだと感じています。子ども同士が関わりの中で成長していくように、私たちも様々な方との関わりの中で、これからの時代の働き方を目指していきたいと思っています。

## 次世代を見据えて

長年お世話になった新宿本社には、知らず知らずのうちに驚くほどのものが溜まり、引越しの伴う片付け、整理、掃除などとても大変なことでした。

例えば、ファイルひとつにしても、後先考えず「とりあえずファイリング」しているものが多く、確かに当時は必要でしたが、その後見直すことなく膨大な量に…。そういう意味では、まめな整理は勿論、保管方法やそもそも本当に保管が必要なのかをよく考えたりと、色々見直せることを感じました。

そしてこの状況は、結局、先を見ずにその時その時で楽な方を選ぶという、決断を先延ばしにして未来に委ねた結果のようにも見え、ファイルの話にとまればまだかわいいものですが、そんな自分の生き方、働き方の悪いクセは、悪気はなくても長い目で見れば次世代へツケを回すおそれがあることを痛感しました。

未来との調和を考えて、次世代にしわ寄せがいかないよう、これを機に注意したいも



書類の山には、先生たちと一緒に歩んできた思い出がいっぱい！

のだと感じています。

また、多かつたのはものだけではなく思い出も…。ものに触れ沢山の記憶が甦る度に、懐かしさを感じたり、成長を感じたり、さびしさを感じたり、ありがたさを感じたりと、とても感慨深い気持ちに。「終わりがあれば始まりがある。そして始まりがあれば終わりがある。」そんなあたりまえのことに気付く機会にもなりました。

これからまた新たな場でも試行錯誤は変わりませんが、次世代を見据え終わりを意識しながら「今ここ」を大事に生きていきたいと思っています。

カグヤでは、それぞれが別々の場所においても、お互いの気持ちや様子をクルー同士はもちろん、皆様とも共有できるよう、毎日、ホームページでブログ配信しています。ここではその一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

## 社内いっぱいの感謝



新宿での最後の初心会議は皆の感謝の言葉で溢れ…。

カグヤがこれまで辿ってきた変革は、決して簡単な道のみではありませんでした。その分だけ社内には沢山のモノが溢れ、それを整理するのは生半可なことではありません。

いざ社内を掃除していくと、家具や食器、文房具に、びっしり書き込まれたノート…その一つひとつにこれまでの色々な出来事が思い出され、複雑な心境にその処理にも迷いが生

## 続いていくための変化

カグヤが創業してから17年、働く人も扱う商品も、世間の常識も変化していきました。そして新たにこの先10年、20年と、私たちカグヤが続いていくためには変化を続けていかなければならないと感じています。

今はまさにその真っ只中にあり、会社の引越し作業を含めたくさんのことを整理する機会となっていて、自分たちやお客様にとって本当に必要なものを見分けるチャンスをお願いしているように思います。

一つひとつ整理していくのは正直大変ですし、今まであったものを廃止し新しいことを始めることに不安

じます。しかしこうして棚の隅から隅まで、書類の一枚一枚を丁寧に返していくと、この場所で積み上げてきた実践が、仲間と紡いできたご縁と共にあることを実感します。そして紆余曲折しながらも、その仲間たちと全力で一緒に歩んでくることが出来たことを、とても嬉しく思いました。

片付けが進むにつれ、社内にあった物や植物はもちろん、園の先生方、パートナーの皆様、他にもご縁をいただいたそのすべてが、これまで私たちを支えてきてくださったのだと、どれほど言葉を尽くしても足りないくらい感謝の気持ちが溢れます。

これから新しい働き方がスタートしますが、どんな場所においても常に感謝を忘れず、子どもが憧れる生き方、働き方を実践していこうと思えます。

もありますが、今こそ新しいもの自身に着けられるチャンス。自分ひとりだとこんなチャンスに足を踏み入れることができず、きつと現状維持になってしまいましたが、有難いことに同じ方向を向いたクルーや環境に背中を押してもらっています。

一人ひとりが進化し、よりシンプルにお客様や子どもたちに寄り添った仕事を考えていきたいと思えます。



慣れ親しんだ新宿のビル街ともお別れですが、場所は違えど同じ空の下、同じ気持ちで新たなスタートを切りました。

## 一期一会庵

### オフィスが変わる

現在、コロナとの共生社会がはじまり働き方改革が一步前進してテレワークからオフィスをなくしていく会社がとても増えてきています。

そもそもこのオフィスとは何か、オフィスをなくすとは何か、そこから考え直す必要があります。

もともと日本は、職住一体型の暮らしを続けてきた民族ですが西洋の文化が流入してきてから工業化が進み、高度経済成長期、衰退期を経て、仕事観も変化して今にいたりします。

そのプロセスでオフィスの環境もまた大きく変わってきました。かつての先祖は何のために生きるのか、何のために働くのかという人生の目的、言い換えれば初心のようなものをもって人は生き方と働き方を決めていたといえます。

その生き方と働き方が一致したものが真の「暮らし」となっていました。その真の暮らし方が変わっていくとすべての日々の仕事は「ライフワーク（天職）」になりそして人生の目的は「ライトワーク（魂を磨く）」ことになります。

どのように生きたいか、どのように働きたいかは、暮らし方とその暮らしの「場」が決めるのです。

カグヤは、子ども第一義、子どもが憧れるような働き方と生き方をしたいことをみんなで取り組んでいます。

そこで今までのオフィスという概念を外して「暮らしフルネス」を実践する新しい「場」を創りました。

東京オフィスも新宿から神田へと移動して、本社という呼び名を撤廃し、「見守りの場」の意味から呼び名を「ライトハウス（灯台）」としました。

これからの子どもが憧れる働き方を実践し、大人たちがイキイキと合わせそうに楽しんで仲間と助け合い支え合い、変化を挑戦と成長のチャンスにして自他の仕合せが周囲の喜びになり、子どもたちが未来に、憧れる暮らしがあるように「場」づくりを通してこれからも面白いことに取り組んでいきたいと思えます。



## 編集後記



風が吹き抜けるライトハウス！

今月も竹取新聞をご覧頂き、ありがとうございます。急に肌寒くなりしましたが、皆さまお変わりございませんか？ 季節の変わり目と共に、「子ども第一義」の理念のもと、カグヤは「子どもが憧れる働き方」の実践を本格的にスタートさせました。新宿の本社オフィスを撤廃し、新たに神保町にライトハウスを設け、働く場所を固定

せず、豊かな暮らしの中で働ながら「暮らしフルネス」を自分たちで体現していきます。今号はそれに伴い各々が感じ、体験し、抱いた想いを記事にしました。ここから私たちカグヤの新たなステージが始まります。これからも皆様と一緒に、子どもの憧れる未来をつくって参ります。どうぞよろしくお願いいたします。（佐藤）

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます

